

『台湾日々新報』から見る土砂災害と防災教育展開に向けた提案

Studying Landslide Disaster Experiences from History: An exploratory study of Analysis Text on Taiwan Daily News

林怡資*

LIN · YI-TZU

1.はじめに

1.1 研究の背景

台湾における防災教育は、過去の災害データをうまく利用していない、防災教育に関する研究は単一機関のアンケートのみによって実施効果を推し量る研究が多い。

一方日本では、原田隆典（2014）は日向灘地震の歴史資料によって学習者に自然災害の恐怖を伝えて、防災計画を書いたり、雲仙岳の被害状況を知らせることによって、住民たちに様々な対策を考えさせた。（杉本伸一，2014）²⁾。被災者の災害体験の経験を集めることによって、それが、現地の「災害の歴史資料」になった。後輩にビデオで伝えた。（木村鈴欧，2013）等々³⁾。

このような災害時の具体的な行動資料を使って防災意識を喚起する方法は、これまでの台湾の防災教育の欠落部分である。

1.2 研究の目的

《台湾日々新報》はその代表的なものである、その原因は日本統治台湾の五十年間（1895 から 1945 まで）には何回もの大災害があった。そして、この新聞は日本政府としての広報の役割があつて、情報を発信する主要なルートだった。住民の被災状況などを記録していたので、当時の代表的な文献と言える。⁴⁾

本研究の目的は《台湾日々新報》の過去の記事を対象として文献分析する、その分析を通して防災教育の方法を考察し、提案に繋げたい。そして、過去の災害記録の欠落したデータに関する背景情報を提供したいと考えている。

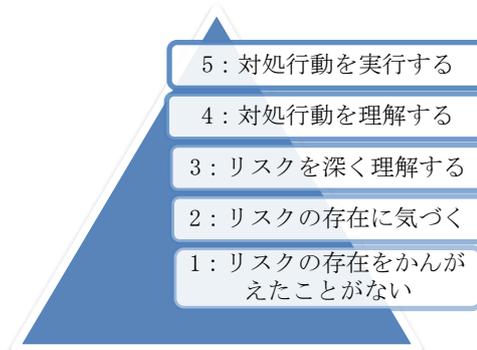
1.3 研究方法

研究対象は《台湾日々新報》WEB版（2018年4月）を使用し、1896年から1944年にかけて、キーワード「土砂」、「山海嘯」、「砂防」によって検索された文献を対象とした。その結果、「土砂」に関する文章は189編、「山海嘯」は14編、「砂防」は172編。

2.理論

David kolb は伝統教育に対して経験学習モデル (experiential learning model) を提案した、コルブの示した循環とは、図1のとおりである⁵⁾。それは具

体的経験、反省的思考、抽象的概念化、行動四つの段階で構成されている。具体的経験とは学習者が環境に働きかけることで起こる相互作用のこと。反省的思考とは個人が実践にとって自らの行為・経験・出来事の意味を、多様な観点から振り返ること。抽象的概念化とは、経験を一般化、概念化、抽象化し、他の状況でも応用可能な知識・ルールなどを自らつくりあげることができる。行動は最終プロセスとは行動ができることである (Kolb 1984)。

図1・災害経験学習モデル¹⁾図2・防災意識フィイズのピラミッド²⁾

でも、災害の経験は人によって具体的経験があるかどうかで違うので。経験学習モデルとして災害経験の場を利用するためには、直接と間接的な経験に分けることができる。人がリスクを感じるには、自分の経験・他人からの情報・間接的な社会連結の三つがある (Singer & Endreny, 1993) ⁶⁾。片田氏ら (2008) は一般住民を対象とした防災教育の目標は、災害に対する自主的な防災行動を促すとともに、

* 台湾国立既南国際大学土木工学科

¹⁾ David kolb (1984) 筆者翻訳。²⁾ 片田敏孝 (2008)。

防災対策の必要性の理解を過不足なく伝えることである⁷⁾。そしてリスク・コミュニケーションの段階的な目標をまとめた、「リスクの存在をかんがえたことがない」部分は経験学習の一段階で使うと「リスクの存在に気づく」になる。歴史災害は間接的な経験の一つ。

3.土砂災害の内容

以下は新聞内容から、災害管理の観点として、平時と災時に分けて、各内容の概要を説明する。

3.1 平時

1906年の新聞から、砂防に関するの内容がある。台湾は降雨や土砂災害発生の多い地域なので、砂防の事業は早めに行っている、そして、海岸に関する砂防事業の新聞もある。平時の内容は日本政府から防砂工事の実施と試験などの内容が多い、例えば防風林あるいは図3土砂流出試験。



図3・土砂流出試験のニュース

3.2 災時

地震とは異なり、土砂災害は主にローカルで発生するため、通常は連続して載せる新聞はあまりない。そして、発生の原因がたくさんある、急な地滑り地震・大雨・工事中の事故など。図4は土砂災害による被害のニュース。

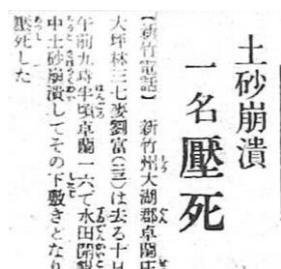


図4・土砂災害による被害のニュース

4.「土砂災害」の意味

『台湾日々新報』から見る土砂災害のニュース内容を分析すると四つの意味がある。それは(1)歴史災害データとして、当時の社会背景が少し見える。それは新聞の特性なので、誰が死んだとか何が原因かなどを書くことが可能である。(2)ガバナンスの普及と経路、あるいはその時代の記録。この新聞は政府の情報の伝達のルートとして、政府から教えたい

ことを載せることに意味があった(図5)。(3)日本は台湾の災害の歴史の共同体。これは、日本統治の時期、台湾の新聞は日本の地方土砂災害があった新聞が見えること(図6)。(4)補足的歴史災害事件。今台湾は土砂災害に関する写真の集めることをやっている³⁾、歴史資料は一つのソースとして利用する可能性が高い。

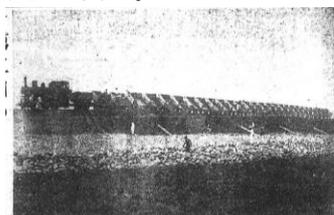


図5・砂防工事の車



図6・静岡県の災害

5.災害経験を通して実践型防災教育の提案

ぼうさい甲子園や防災教育チャレンジプランの実践事例をいくつかの特徴的な活動に分類している(諏訪清二, 2011)⁸⁾、本研究はその分類を使用し表1四型を分類と提案。

表1, 実践型防災教育の提案

分類	訓練・体験型	知識型	成果型	教える型
目的	自助と共助の精神を重視した自習や訓練。	専門的な知識の学習・施設を見学・調査・ゲーム	コミュニティにフィードバック・人が学ぶための教材	教えながら学部アプローチ
提案	略			

参考文献

- 1) 原田隆典(2014)。歴史地震資料から学ぶ。災害伝承—命を守る地域の知恵, 高橋和雄編, 1-21。
- 2) 杉本伸一(2014)。平成の雲仙普賢岳噴火の災害伝承。災害伝承—命を守る地域の知恵, 高橋和雄編, 53-81。
- 3) 木村鈴欧(2013)。歴史災害を防災教育に生かす—1945三河地震(シリーズ繰り返す自然災害を知る・防ぐ)。
- 4) 台湾日々新報, <http://rrxin.library.ncnu.edu.tw.autorpa.lib.ncnu.edu.tw/>
- 5) Kolb, D. A. (1984). *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- 6) Singer, E.T., & Endreny, P.M.(1993). *Reporting risk:How the mass media portray accidents, diseases, disasters and other Hazards*. Newk: Russell Sage Foundation
- 7) 片田敏孝, 本間基寛, 小田勝也, 熊谷兼太郎(2008)津波防災教育の効果計測手法に関する検討, 土木計画学研究講演論文集, vol.38, CD-ROM (120)。
- 8) 諏訪清二(2011)。夢みる防災教育。防災教育の開展。今村文彦編, 47-70。

³⁾ <https://246.swcb.gov.tw/Event2015/>